

第2-2章 参考人ヒアリング調査

1. 参考人ヒアリング1

原田幸男氏（医療法人せのがわ KONUMA 記念 東京薬物乱用予防センター所長、元高校教諭）

（1）青少年の薬物乱用防止のための活動内容

学校などの教育現場を中心に、全国から依頼を受けて児童・生徒、保護者等に薬物乱用防止教育を担当している。学校全体の研修であれ、クラス単位の研修であれ、壇上で講師が一方向的に話すのでは教育効果は望めない。生徒と目線を同じくして、多くの児童・生徒に発問を促し意見を聞いたり、正誤についての選択をさせるなど、多面的な指導が重要である。また少人数の場合は、自分が薬物の誘い手役になり生徒に断り方を学ばせるロールプレイングなども取り入れ、実践的な学習となるよう心掛けている。全国から依頼を受けるが、学校は予算が少なく交通費の支給が難しいため、当センターの予算から交通費を支出して活動を行なっている。文部科学省の取組により薬物乱用防止教育の指導の機会も拡充し、教師の指導力の向上や専門家の活用なども図られているが、以下のような課題があると感じている。

（2）活動を通じて認識している課題

- 小・中・高等学校で（学習指導要領に）位置づけているにもかかわらず、学校における教科の取組に格差が見られる。学校経営者（学校長）の意気込みによって、教職員の意欲や責任感が異なり、学校長や担当者が変わると前年までの実績が継続されないケースが見られる。また、自治体（市町村）の取組にも地域差が見られる。
- 直接担当する教科の教諭や養護教諭が多忙等で、十分に研修会参加の機会の確保がなされていない学校も見られる。また、薬物乱用防止教育担当者（教務、生徒指導、厚生）だけに任せ、協力・協働の体制が不十分な所もある。
- 薬物乱用防止教室を開催するに当たり、学校全体での計画性に問題のある場合がある。外部講師の依頼が遅く、要請に応えられないことも多い。（少なくとも半年前には連絡を取ることが求められる。）
- 生徒や教職員を対象を絞り、PTAや地域住民、関係機関への働きかけが乏しい学校もある。
- 学校が外部講師の情報を十分に把握できていないため、講師選定に苦労している現状がある。学校が、講師の経歴や実践された学校での評判などを参考にできる仕組みが

あるとよい。また、外部講師は自分の専門性には長けているが、学校教育の専門家ではないため、願う場合には十分な事前の打ち合わせが必要となる。

(3) 見聞きしている効果的な薬物乱用防止活動について

平成11年度から東京都が実施する「薬物乱用防止高校生会議」は、高校生自らが薬物乱用を身近な問題としてとらえ、薬物の誘惑を排除できる能力を習得する機会を設け、参加高校生が学習した内容を広く同世代の仲間に発信していくことによって、より効果的な啓発活動を展開すること等を目的に、平成11年度から実施されている薬物乱用防止活動である。

高校生が施設見学や専門家による講義、インターネット等による情報収集などを通して、自ら薬物乱用の問題について話し合い、学習成果をメッセージとしてまとめ同世代に向けてアピールを行う取組で、参加した高校生が自分の学校で主体的に啓発活動を行ったり、「麻薬・覚せい剤乱用防止運動」東京大会等で成果を発表するなど、成果が大きいと聞いている。なお、東京都では学校等への講師派遣（無料）、薬物乱用防止活動に熱心に取組む学校を「薬物乱用防止活動率先校」として選定し公表する、などの取組も行なっている。

(4) 効果的な薬物乱用防止教育に関する意見

学校での薬物乱用防止教育(薬物乱用と健康)の直接の指導者は学校の教諭であるため、特に中心教科の保健体育担当者の指導力を高める努力をお願いしたい。そのためには、教育委員会の主催する研修会への参加はもとより、例えば、民間で主催する薬物乱用防止教育研修会や薬物乱用問題等指導者研修会等にも積極的に参加して、力量を磨く事も必要である。

2. 参考人ヒアリング2

館 親光氏(ライオンズクラブ国際協会330-A地区 青少年育成委員会 薬物乱用防止担当副委員長)

(1) 青少年の薬物乱用防止のための活動内容

平成21年11月現在で、東京地区のライオンズクラブでは600人が薬物乱用防止教育認定講師の資格を取得しているが、実際に学校で薬物乱用防止教室の講師をしているのは約70名程度である。東京地区では「東京八王子陵東ライオンズクラブ」の活動が秀でており、10年程前より年間約300万円の予算で、薬物乱用防止教室に集中した活動をしている。その活動を参考に平成16年以降、葛飾区、江戸川区、世田谷区などの教育委員会や学校に対し「薬物乱用防止教室開催」の企画書を提出するなどして働きかけ、また、昨年の薬物に関する事件の影響もあり、平成21年度は私個人が講師を担当したものだけでも30件を超える活動ができた。中学校や高等学校は既に依頼している講師が決まっているためか、要請があるのはほとんどが小学校である。

小学校での標準的な薬物乱用防止教室カリキュラム(45分)

内 容	所要時間	担当講師
1. 学校側挨拶	2分	学校長又は担当教諭
2. ライオンズクラブ挨拶 *ライオンズクラブの概要説明 *講師の紹介	2分	ライオンズクラブ会長等
3. 講師の挨拶	1分	担当講師
4. ビデオ(DVD)上映 *薬物防止センター制作『みんなで学ぼう!薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」』を使用	15分	
5. 講話 *パワーポイントを活用する場合もあり *教材は「健康読本 薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。愛する自分を大切に」をライオンズクラブが準備し配付。東京都の無償で提供される啓発教材(「リーフレット 健康に生きる(東京都保健局)」)を活用する場合もある。 *講話内容:薬物乱用の正しい説明、薬物乱用の身体等に及ぼす影響とその害、薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」	20分	
6. 質疑応答	5分	

20分という限られた時間の中で、児童・生徒に対しわかりやすくメリハリをつけながら伝えることは大変難しいが、近所のおじさんが話に来たという立場で話している。後日児童・生徒に必ずアンケートや感想文を書いてもらうよう学校に依頼しているが、文章を書くことで生徒の振り返り効果も期待でき、自分自身も講話の反省材料として活用して

いる。なお、児童と接していて、テレビなどのメディアの影響は大きいと実感している。

(2) 見聞きしている効果的な薬物乱用防止活動について

ライオンズの活動を全国でみた場合、愛知県が一番熱心に活動している。また、広島県では、平成 21 年度より広島国際大学、広島フェニックスライオンズクラブ、(財)麻薬・覚せい剤乱用防止センターが提携して、大学生に学生認定講師の講座（後援：内閣府、厚生労働省、文部科学省、警察庁）を受講して資格を取ってもらい、薬物乱用防止教室の講師を担当すれば大学の単位を与えるという取組を全国で初めて実施している。平成 21 年度はライオンズクラブの認定講師の指導を受けながら小・中・高等学校 8 校で講師として活動した。このような取組が全国で動き出せば、薬物乱用防止教室の新たな担い手としても、また大学生の教育啓発としても大変有意義であると考えている。

(3) 活動を通じて認識している課題

学校は忙しすぎて、薬物乱用防止教室の時間を確保したり講座の打ち合わせをするのが非常に難しい現状である。また、東京都でも教育委員会から学校に対して年1回の薬物乱用防止教室開催の要請があったと聞いているが、学校現場は質の高い薬物乱用防止教室を実施できる講師に関する情報が不足していると感じている。ライオンズクラブ内でも講師同士の情報の共有が進んでいない。今後ライオンズクラブ内でも実践事例の共有を図り、各地域で立ち立ちできる講師の育成を進めていくことが課題である。また、今後薬物乱用防止教室の依頼数が急激に増加した場合の予算確保も課題である。